

東北復興支援ボランティア ご参加のしおり



2013年7月18日改訂

- ◆ はじめに JEN と活動とボランティアの意義
- ◇ ご参加の条件
- ◆ 作業内容について
- ◇ 安全と衛生について
- ◆ 服装と準備、作業について
- ◇ 現地での宿泊・食事について
- ◆ 現地までの交通について
- ◇ お申込みとボランティア保険
- ◆ お申し込み先・緊急連絡先
- ◇ 持ち物チェック表・活動にあたっての留意点

東北事業部: 宮城県石巻市鑄銭場 3-13SASADENビル 201

(電話)0225-25-5611 (Fax)0225-25-5612

東京本部: 東京都新宿区揚場町 2-16 第二東文堂ビル 7 階

(電話)03-5225-9352 (FAX)03-5225-9357

はじめに JEN の活動とボランティアの意義

東日本大震災について

2011年3月11日、日本観測史上最大の M9.0 の地震が宮城県沖で発生しました。震源地に最も近い宮城県で震度7、福島県で震度 6 強の地震と、最大 23.3mもの津波、火災により、死者・行方不明者合わせて 2 万人以上に達しました。2013年7月現在においても、仮設住宅で生活を送る方は石巻市だけで 15000 人以上に上ります。人びとは日常の暮らしを取り戻しつつありますが、地域はいまだ厳しい状況にあり、人口減少など、震災によって露呈した社会課題は深刻さを増しています。

JEN の支援活動について

JEN では、2011年3月に石巻市に現地事務所を開設し、物資配布の他、家屋の泥や瓦礫の除去などを実施し、コミュニティ・カフェの設置、仮設住宅のコミュニティ支援、流出した漁具の支援、仮設商店街の設置などのプロジェクトを、地元スタッフを中心に実施してきました。

JEN では、今後も、被災者の方々が元の生活を取り戻し、より未来への希望を抱くことができるようなサポートとして、中長期的な視野に立ち、生業回復、産業復興や心のケアを含めた自立支援活動を継続して実施していきます。その活動の一環として、復興までの長い道のりの各段階を支えてくださるボランティアの方を募集しています。

ボランティアとして参加してくださる皆様一人一人の力と、その言動に勇気づけられる地元の方々のパワーが復興には欠かせません。JEN と共に活動していただける皆様のお力添えに感謝するとともに、石巻へのお越しを、スタッフ一同お待ち申しあげております。

ご参加の条件

- 現地まで自力でお越しいただける方(現地集合・現地解散となります)
- 宿泊施設を利用の場合、共同生活ができること
- 滞在中の作業着、装備を持参できること。(持ち物については別項を参照)ボランティア保険に加入していること。(お近くの社会福祉協議会でご自身にて加入をお願いします。「天災プラン」にご加入ください。加入した年度内有効となります。)
- 念書のご記入に同意していただけること
- 単独での参加可能年齢は、満 15 歳以上です。未成年者(6 歳以上 15 歳以下)のご参加の場合、保護者に同伴いただき、念書へのご署名をお願いします。

作業内容について

- 支援のニーズに合わせ、その時に必要な作業をお手伝いいたします。例えば、
- 漁業復興に向けた作業のお手伝い
- 農業復興に向けた作業のお手伝い
- 地元主体の各種イベント等のお手伝い
- 子どもの遊び場であり、地元の方々の拠り所である沢や寺社、公園等の清掃
そのた、ニーズの変化や被災地の状況、天候により、その都度最も必要性が高い作業を行いますので、作業内容は随時変わります。ご了承くださいませようお願いします。

安全と衛生について

- 出発前から体調管理に注意してください。睡眠不足、前日までのお酒の飲みすぎは熱中症などのもとになります。体調に不安がある方は参加をお控えください。現地の作業内容や天候等により、スタッフが判断した場合には作業を中止する場合がありますので、その指示に従っていただきます。
- また、現地では、余震活動と思われる地震があります。作業前に避難場所などをスタッフが説明します。

服装と準備・作業について

- 漁業支援活動では、濡れる場所での作業が多いため、スニーカーや作業靴よりも長靴をお勧めしています。
- 瓦礫撤去などの危険物を取り扱う作業はだいぶ減りましたが、作業内容によっては作業中の切り傷からバイ菌が入り、大きな怪我につながる場合もあります。汚れても良い長袖、長ズボン、手袋を着用し、肌の露出を控えましょう。
- 夏季は作業中の熱中症などの対策が必要になります。日よけ用に帽子や風通しのよい作業服をご準備ください。
- 冬季は防寒対策をお願いします。ニット帽、イヤーマフラー、防寒ジャンパー、厚手の靴下、カイロなどが役立ちます。
- 作業中の休憩は JEN スタッフが管理しますので、指示に従い、しっかり休むようにしてください。水分などは各自必要に応じて取ってください。
- 疲れを感じた場合、具合が悪い場合にはすぐに作業を中断して監督者(JEN スタッフ)にお声掛けください。

現地での宿泊について

- 宿泊所:「JEN 渡波宿泊所」(宮城県石巻市渡波字山崎 48-2)をご利用いただけます。
- 宿泊所では寝袋などを使って共同で寝泊りしていただきます(布団の用意はございませんが、寝袋をお貸しすることが出来ます)。元民家で床は畳です。
- 宿泊所をご利用の場合、施設管理費実費として:1泊 1,000円/人をご負担いただいています。(連泊の場合、最大 5000円。2013年4月1日より改訂)
- 水洗トイレ、台所、ガス給湯器、プロパンガスコンロ(2口)、があります。
- コインランドリーはありますが車が必要です。手洗いでの洗濯は可能です。
- シャワー(2台)あります。他の方と時間を調整してご利用ください。また、車で約 20分の場所に温泉(元気の湯)があります。(入浴料 800円)
※宿泊所は 21時消灯です。ご近所の方、お休みの方のご迷惑にならないよう、ご配慮願います。

【JEN 渡波宿泊所】

住所:石巻市渡波字山崎 48-2 (<http://goo.gl/maps/xqhE1>)

※8畳×3部屋、6畳×2部屋。定員約 20名

※他の宿泊者との相部屋(男女別)

水洗トイレ 2基、シャワー2基、台所、調理器具、冷蔵庫、寝袋利用可

現地での食事について

- 活動時の昼食は各自で持参していただくか、宿泊所付近・活動場所付近で購入していただくことになります。徒歩で行ける範囲内には、コンビニ(約 10分)、魚屋、酒屋があります。スーパーへは徒歩約 30分かかります。
- 宿泊所には、プロパンガスコンロがありますので、簡単な自炊も可能です。

現地までの交通について

- 石巻駅前まで、各自の手配で集合してください。

石巻までの交通には、以下の方法があります。

- 【バス】 仙台⇄石巻:宮城交通 ミヤコーバス(お問合せ先 022-711-5310)
東京⇄石巻:直通の高速バスが各社から出ています。
- 【鉄道】 仙石線:高城町～陸前小野は津波被害により、松島岸駅～矢本駅までの間は列車代行バスが運行。
東北本線⇒石巻線 小牛田駅乗換え 小牛田駅経由の直通快速が朝晩運行
- 自家用車でお越しの方は、宿舎の駐車場をご利用いただけます。事前にご連絡ください。

お申込みとボランティア保険

- 別紙「参加申し込み用紙」に必要事項をご記入のうえ、FAX(0225-25-5612)またはメール(volunteer@jen-npo.org)で、JEN 石巻事務所、東北ボランティア担当宛にお送りください。
- ボランティア保険(天災プラン)にご加入いただくことは必須です。お申込みについては、お近くの社会福祉協議会等で事前にご自身にて加入をお願いします。一度加入するとその年度内(3月末まで)有効です。
- 活動期間は 1 日からお受けいたします。
- 定員は 20 名とさせて頂いております。20 名を超えた場合はご参加頂けない場合もございます。予めご了承ください。

お申込み・お問い合わせ・緊急連絡先

◆お問い合わせ先

- 特定非営利活動法人ジェン(JEN)石巻事務所
- 電話:0225-25-5611 (平日 9:00~18:00)
- FAX:0225-25-5612
- E-mail:volunteer@jen-npo.org

◆現地での緊急連絡先

JEN 山中(080-4583-1891)

JEN 鳥塚(080-4583-6481)

JEN 今藤(080-3578-4234) ※緊急時以外はお控えください。

ご出発前の持ち物チェック表

<input checked="" type="checkbox"/>	持ち物	備考
<input type="checkbox"/>	長袖 長ズボン	作業用に汚れてもよい服をご用意ください。怪我の防止のため、長袖・長ズボンを着用し、肌の露出を控えてください。
<input type="checkbox"/>	長靴	急な雨にも対応でき、漁場やあらゆる作業に適しています。
<input type="checkbox"/>	マスク	風邪防止、防寒対策にもなりますので、お持ちいただくことをお勧めします。
<input type="checkbox"/>	帽子	夏は日除け、冬は防寒対策をお奨めします。
<input type="checkbox"/>	着替え	十分お持ちください。
<input type="checkbox"/>	タオル	夏の作業で首に巻くと暑さ対策にもなります。汚れてもよいものをお持ちください。
<input type="checkbox"/>	洗面道具	
<input type="checkbox"/>	軍手・ゴム手袋	軍手は水には弱いので、ゴム手袋もご持参ください。
<input type="checkbox"/>	雨合羽(上下)	必須アイテムです。雨以外にも、濡れ仕事にも有効です。
<input type="checkbox"/>	常備薬	必要な方は必ずご持参ください。
<input type="checkbox"/>	健康保険証のコピー	
<input type="checkbox"/>	参加のしおり	
<input type="checkbox"/>	懐中電灯	夜間の緊急時に必要になる場合もあります。
<input type="checkbox"/>	水筒	目や手を洗える水を入れておくのがベストです。
<input type="checkbox"/>	ウエストポーチや ディバッグ	作業時に貴重品や荷物を身に着けておくのに便利です。

現地での活動にあたっての留意点

- 震災から時間が経過し、地域差はありますが、復興は着実に進んでおり、地区によっては、震災の爪跡を感じさせない街並みもあります。それでも、そのようなエリアを一步出ると、まだまだ復興が進んでいないエリアが残っています。
- また、被災者の中には大切な人を失い、心が立ち直っていない方もたくさんいらっしゃいます。現地で被災された方々と話しをされる際には、言葉の使い方にはご配慮願います。ちょっとした言動が、被災された方々やご関係者の感情を傷つける可能性があることにご留意ください。